

発汗など伴う「肉極」 越婢加朮湯を使用

Q 四十三歳、男性。元来アレルギー体質ですが、健康診断で種々の異常や境界領域の数値を指摘されました。大腸のポリープは切除し良性でした。今は食事のバランスに気をつけるようにとの説明。体調がよくないので漢方を試してみたいのですが。

関節痛があり、尿酸値が高めであるが、部位から典型的な痛風ではないとのこと。血糖値はやや高め、尿や血圧、心電図は正常だが、むくみやすくのが渴き、色黒・汗かきであるという。

以上の状態を漢方の病態認識で診断すると「肉極（にくきよく）」という状態ではないかと推察する。

A 質問者は健康診断の結果のコピーを同封しているが、まず身長一六八cmに比べ、体重七九kgは肥満である。花粉症とアレルギー性結膜炎、下肢に皮しんが出やすく、皮膚科では結節性紅斑（こうはん）の疑いとのこと。白血球の中の好酸球というアレルギーに関係した数値が高い。眼瞼（がんけん）結膜の充血と胃、胆のう、大腸にポリープを指摘されている。ひざや足指の

ポリープや眼瞼結膜のただれを肉がむくんでもりあがった状態、すなわち肉極と考えることができる。しばしば結節性紅斑や、ひざや足指の関節痛、発汗、浮腫（ふしゅ）を伴う。越婢加朮湯（えっぴかじゅつとう）が用いられる。このように現代医学でさまざまな異常を指摘され治療の決め手のないものに漢方医学の適応となるものが少なくない。